

めくる時刻表から
印象の森を探ってみても
何も誰も答えやしない

くっついていてかと思っていたら
今にも離れるかのような流氷
で覆われている

皮膚たち

埋められたミクロの追憶
を果てしなく弱く

唇から発される

呼吸から聞く